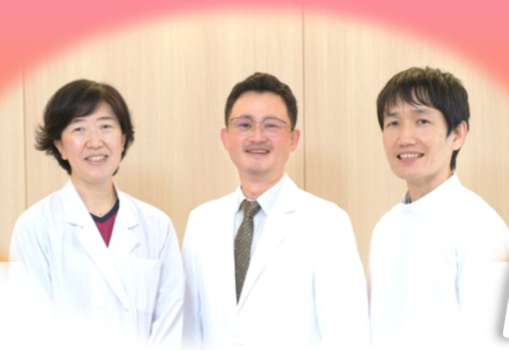


乳腺外科・ブレストセンター



乳腺外科に少しでも関心のある学生・若手医師の皆さんへ！

ご訪問ありがとうございます！乳腺外科の嶋田です

多くのメディアで報道されている乳がん。5大がんの1つであり9人に一人が罹患するメジャーな疾患で女性最多の悪性腫瘍にもかかわらず、**専門医数は23領域中17位と少ない現状があります。**

しかしこれは今後乳腺外科医を目指す医師にとっては大きなメリットともいえます。まずは乳腺外科のメリットについての当科でのR5年FORMSアンケート（現役乳腺外科医師：男性12名女性12名）の結果を見てみましょう。

【やりがいがあると感じた】

- ・罹患数多いが専門家が少なく自分の存在価値を感じられる
- ・社会的役割の大きい若年女性患者の手助けができる
- ・検診や診断から終末期まで通して診療できる

【将来性を感じた】

- ・同性医師の需要が高い、男女ともに活躍できる
- ・専門クリニックが少なく開業時にライバルが飽和していない
- ・分子生物学的な発展が早く今後も先進性がある
- ・手術治療があり、一生ビジネスライクにならずずっと達成感

【1つの臓器に絞った集学的治療を学べる】

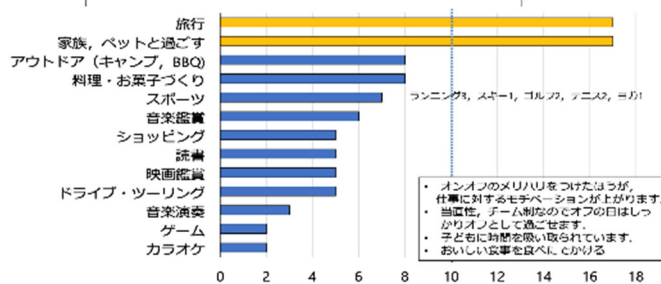
- ・集中して1臓器を極める事ができる
- ・検診、疫学、画像診断、手術、再建、ケモ、ホルモン、基礎医学、臨床試験、病理、ゲノム、遺伝、地域連携、患者サポート、緩和、など自分の専門分野の選択肢が広い

【外科系だがワークライフバランスが良い】

- ・緊急手術、当院がかなり少なく余暇を過ごせる
- ・検診が盛んで長期休暇中のバイトが豊富
- ・日中に集中すれば時間外業務は少ない

複数選択可

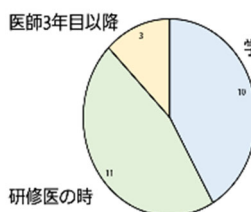
趣味はなんですか/余暇をどんなことに使っていますか



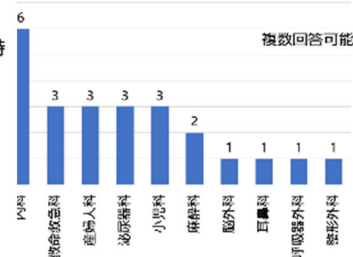
乳腺以外の外科修練に不安を感じている方へ一言

- ・横市専攻医は乳腺以外のローテが短い (卒21年男)
- ・数年の苦労は決して無駄にはならない (卒10年男)
- ・意外と大丈夫、終わったら自信ついています (卒8年女)
- ・これが最後くらいの気持ちでなんとかなった (卒10年女)
- ・どの科を選んでも大変だよ (卒20年女)
- ・外科は実際はいつから余計なのしかった (卒11年女)

外科に進むことを決めた時期



外科で迷った診療科



実際に当科を選択した研修医の声

- ・苦手だった抗癌剤を楽しく感じられた (研修医1年女)
- ・癌の手術ができ医師として充実していた (研修医1年女)
- ・形成志望の自分にとっても充実した基本主義が学べた (研修医2年男)

QOLのバランスも良く、外科的内科的両面で活躍でき、社会に求められ自分の存在価値を見いだせる将来性のある科目だといえそうですね！



手術

約150例/年の乳癌手術を実施しています。手術は1～2時間と短時間であるため研修医や専攻医にも基本手技や悪性腫瘍の執刀を安全に積極的に指導しやすいものとなります。自らの手で癌を治療する経験は何にも代えがたい充実したものとなるでしょう。安全に配慮しながら共に癌を「その手」で治療しよう！

薬物療法

乳癌薬物療法には、化学、内分泌、分子標的、免疫チェックポイント阻害薬治療があり、遺伝子やタンパク発現に基づく乳癌はオーダーメイド医療が最も発展している分野です。手術だけでなく、薬物治療もできるオールラウンダーな腫瘍専門医になることが可能で魅力的な目標となるでしょう！



チーム医療

乳腺疾患はAYA世代（若年）に多い特徴があるため当科では就労支援、家事、妊孕性、遺伝、子育て、経済的・精神的な面など生活の質をトータルサポート多職種チーム体制(プレストセンター)を構築しています。「疾患を治すだけでなく「人」に寄り添い地域・社会を治すチーム医療を共に実現しましょう！



当院乳腺外科は横浜市大消化器腫瘍外科学に属する乳腺疾患を専門とした科目になります。関連病院には多くの拠点病院があり最短で乳腺専門医を目指すコースを歩めます！フレキシブルな働き方が可能で現在半数が女性医師です。

後悔はさせません！まずは横浜市立市民病院から共に出発しましょう！